

# 発話場面に依存する一名詞句文「N(P)嘛」の用法について

王 瓊

wangqiongcarolyn@yahoo.co.jp

キーワード：中国語 語気助詞 一名詞句文 N(P)嘛

## 要旨

本稿は中国語の「名詞または名詞句N(P)+語気助詞『嘛 (ma)』」が一名詞句文として機能する構文の用法を検討する。この構文の機能は、N(P)の指示対象に関する百科事典的知識を手がかりとして、聞き手に先行文脈との関係（典型的には因果関係）を推論させることである。典型的な用法においては、N(P)は類の名称であるため、その類のもつ特徴が容易に想起される。したがって、そうした特徴について後続文で改めて述べる必要がない。一方、N(P)が特定の対象を指す場合には、その対象に関して聞き手が何らかの推論を行うことが要求され、そのため、その手がかりとなる内容をもつ後続文が必要となる。

## 1. はじめに

中国語に文末または文中に置かれる「語気助詞」と呼ばれるものがあり、様々な心的態度を表すとされる<sup>1</sup>。例えば、(1)の「か」に対応する「吗 (ma)」はその一例である。

- (1) 明天 走 吗?  
明日 行く ma  
(明日行きますか。)

【吕 (1980)】

吕 (1980) によれば「麼/嚙/么 (me)」、「嘛/麻 (ma)」などと区別せず、全てまとめて「吗 (ma)」と表記する人もいるが、Chao (1968) は (1) のような疑問を表す「吗 (ma)」と、疑問を表さない「麼/嚙 (me)」を区別して表記している。本稿では、疑問を表さないものを扱い、「麼/嚙/么 (me)」や「嘛/麻 (ma)」などをまとめて「嘛 (ma)」と表記する。

語気助詞「嘛 (ma)」は、吕 (1980)、香坂 (1982)、刘 (1988)、张 (2010) などによると、「事情・理屈がはっきりしている」、「理から言って当然そうである」<sup>3</sup>ことを表し、文末または文中

<sup>1</sup> 井上 (2012) を参照されたい。

<sup>2</sup> 語気助詞のグロスにピンイン表記を用いる。

<sup>3</sup> それぞれ吕 (1980: 337) と香坂 (1982: 817) による。

でポーズを置いて用いられる<sup>4</sup>。例えば、例文 (2) は文末、(3) は文中で使われる例である。<sup>5</sup>

(2) 人 多 力量 大 嘛。

人 多い 力 大きい ma

(人が多ければ、力も大きいじゃないか。)

【吕 (1980)】

(3) 这 个 问题 嘛, 很 简单。

この 個 問題 ma とても 簡単

(この問題はとても簡単だ。)

【吕 (1980)】

吕 (1980) は、文中で用いられる「嘛 (ma)」を「文に対して聞き手の注意を喚起」するものと分析した上で、次の三つに分類している。(3) は「a 主語の後ろに用い、主語を強調する」例であり、「论到/至于说 (について言うとき)」というほどの意味となる。それ以外に、「b 仮定の節の文末」と、「c 若干の副詞・接続詞・応答語の後ろ」に生じる用法がある。しかし、次のように、文中の用例と文末の用例のどちらなのかが明らかでない場合がある。

(4) 男甲：“火 是 从 当铺 烧起来 的。……人们 嚷嚷开了， 说是 有

男甲：火 だ から 質屋 燃えはじめる の 人々 騒ぎ出した という いる

人 放火 烧 的 呀。警察 一调查， 还 真 就 是 有 人

人 放火 燃やす の ya 警察 調べたら やはり 本当 まさに だ ある 人

放的火。……听说， 犯人 从 保险柜 里 偷走 很 多 钞票， 逃跑了。”

放火した 話によれば 犯人 から 金庫 中 盗む とても 多い 紙幣 逃げた

男乙：“当铺 嘛， 那 钱 一定 很 多 喽。”

男乙：質屋 ma それ 金 きっと とても 多い lo

(「火元は質屋さ……みんなが放火だって騒ぎはじめてさ。警察で調べたら、やっぱり放火だってよ。……犯人は金庫から札束をしこたま盗んで逃げたんだとよ。)

「質屋じゃねえか。そりゃ金はいっぱいあるだろうさ」

【木村・森山 (1997)】

例 (4) の「嘛 (ma)」は「当铺 (質屋)」という名詞一語の後ろに付けられているが、文中と文末いずれの解釈も可能である。文中の解釈をとれば、質屋を話題として提示してから一般的な質屋の特徴についてさらにコメントをしていることになる。つまり、「質屋はお金があるだろう」

<sup>4</sup> 朱 (1982) は語気助詞が「句尾停顿处 (文末のポーズのところ)」と「句子内部停顿处 (文内部のポーズのところ)」に現れることについて記述している。Chao (1968) は「嘛 (ma)」について“pause particle with hesitation”と記述している。“as for, in case of... well”という意味を表す文中用法の例を挙げている。「今天我不能，明天嚶，待会儿再说罢。(I can't today; as for tomorrow, well, let's talk about it later.)」

<sup>5</sup> 語気助詞は後置される機能語であり、出現位置によって、文末のみに現れる「文末語気詞」と、文末または文中に出現する「文中語気詞」に分類される。本稿においては、文末に使われる「嘛 (ma)」の用例を「文末の用例」、文中に使われる「嘛 (ma)」の用例を「文中の用例」と呼ぶ。

と、盗難の標的になった理由を述べている。呂 (1980) の言うように、「a 主語の後ろに用い、主語を強調する」用法と考えられるが、かりに後続文を省き文末の用例としても、この文脈においては非文にはならない。たとえば、次のような発話は男甲の発言への反応として自然である。

(4') 男乙: “ 当铺嘛。”

「質屋なんだから」と言うだけで、「お金がある」ことを明言していなくても「嘛 (ma)」をつけることで容易に質屋一般の性質を連想できる。その質屋が狙われた理由を自分なりに解釈しているように聞こえる。沈 (2013) も「嘛 (ma)」に「文を完結させる機能<sup>6</sup>」があると述べている。その場合の「嘛 (ma)」は文中に用いられるというより、文末の用法に近い。一方、(4) において接続詞として訳されている「那」は盗まれた特定の質屋を意味する場所指示詞としても解釈可能である。

(4'') 男乙: “ 当铺 嘛, 那 钱 一定 很 多 喽。”

男乙: 質屋 ma そこ 金 きっと とても 多い lo

(「質屋なんだからね。そこ(盗まれた質屋)に金はいっぱいあるだろうさ。」)

この場合の「当铺 (質屋)」は質屋というモノ一般を指し、さらに「嘛 (ma)」をつけて (4') と同じように質屋の特徴 (お金があること) を盗まれる理由として提示している点は後続文を省略した (4') と変わりはない。「那 (そこ)」は相手の発話に現れた特定の質屋であり、一般的な質屋の性質からその質屋にも「お金はいっぱいある」と推論している。ただし、語気助詞が、同じ指示対象を持つ「当铺 (質屋)」と「那 (そこ)」の間に入ると考えることはできないため、この場合の「嘛 (ma)」は文末の用例と考える方が適切であろう。

本稿は、例文 (3) と (4) の「当铺嘛」のような「名詞 (N) または名詞句 (NP) + 語気助詞」という構造を一つの構文とみなし、語気助詞「嘛 (ma)」が含まれる「N(P)嘛 (ma)」文の意味分析を試みる。

## 2 一名詞句文の定義

中国語の品詞分類に体詞と呼ばれる内容語のカテゴリーがある。名詞をはじめ、場所詞、方位詞、時間詞、区別詞、数詞、量詞および代詞の一部が含まれるが<sup>7</sup>、本稿ではまとめて「名詞」として扱う。朱 (1982) は中国語の文に関して、主述文と非主述文という構造に基づく分

<sup>6</sup> 「完句功能」である。張 (2010) によれば、「把一个不能单独成句的黏着短语转化为能够独立成句的自由短语的功能 (单独で文になれない膠着的なフレーズを独立した文として振舞うことができるフレーズに転換させる機能)」であり、「成句功能」とも呼ばれる。

<sup>7</sup> 朱 (1982) における体詞の章を参照されたい。

類を示している。非主述文には単独の語によって構成された文が含まれ、例として名詞一語文も挙げられている。また、尾上 (2014: 21) は日本語の一語文を次のように定義している。

(5) 典型的には名詞一語のような概念表示形の単語一語で一文となっているものを一語文と呼ぶ<sup>8</sup>。

このような一語文と同様の表現機能を持つものとして、本多 (2005) は修飾語と共起する名詞の「連体修飾構造」からなる文を「一名詞句文」として扱っている。この論文では、「一語」を広く捉え、「名詞一語」と「修飾語付きの名詞」をまとめて考察対象にする。

モノを相手に対して提示してそれに注意を向けさせる行為に類比的な発話として、一語文がよく挙げられるが、モノ自体を提示するのではなく、言語表現という表象を介して共同注意を達成する例として、本多 (2005) は一語文と一名詞句文<sup>9</sup>を挙げている。中国語の「N(P)嘛 (ma)」文も共同注意の達成に関わる機能を持っていると考えるため、本稿においては本多 (2005) の用語を使い、「N(P)嘛 (ma)」文の名詞または名詞句の部分「一名詞句」と呼ぶ。以下では、コーパスから得られた用例をもとに一名詞句の特徴を分析する。

### 3. コーパスの用例に見られる構文の特徴

#### 3.1. 一名詞句の特徴

CCL コーパス<sup>10</sup>から「口語」タイプの「嘛 (ma)」の用例を 241 例集めた。語気助詞全体は 208 例であり、「N(P)嘛 (ma)」は 23 例であった。

(6) N(P)の意味による分類：

ヒト：老板、 孩子、年轻人 (4)<sup>11</sup>、 人民、王师傅 (2)、 人 (2)、 作家、  
経営者 子供 若者 人民 王シェフ 人 作家  
女人、 一个编辑部的同志  
女 同じ編集部の同僚

モノ：小道消息、家庭矛盾、 仿生学、 钱、 集成电路、这封面儿  
うわさ 家庭トラブル バイオニクス お金 集積回路 この表紙

時間：后来、现在 (2)

以後 現在

<sup>8</sup> 「走った」などは外形には一語で一文であっても、主述的な文の述語だけが発話されたものとして、通常は一語文に含められない。

<sup>9</sup> 一語文と一名詞句文は「指し言語」的な例であり、指さしと同様の機能を帯びていると考えられる。「指し言語 (indicational language)」は生態心理学の用語であるが、本多 (2005) はその概念を捉え直し、「共同注意的な場面において」、「題目を選択し、相手の注意をそれに向けさせる言語のこと」と考えている。「N(P)嘛 (ma)」文と共同注意との関係についての議論は別稿に譲りたい。

<sup>10</sup> 北京大学中国語学研究中心が開発した 7 億字の規模のコーパスである。http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\_corpus

<sup>11</sup> 複数のトークンが得られた場合は括弧内にその数を示した。

指示対象に注目してみると、人一般や物事一般を指示対象とする例がほとんどであった。例えば、会社を作った二人の会話で、一人がその会社の役員会に関係者をこっそり入り込ませて情報を探り出すことを考え始めたのに対して、もう一人が「入り込ませるって不当な言い方じゃないか」と反対する。以下はそれに続く発言である。

- (7) 全 是 咱们 自己人, 自己人。咱俩 就 什么事 不操心。就  
 全て だ 私たち 仲間 仲間 私たち まさに 何事 心配しない まさに  
 是 OK, OK。老板 嘛, 你 知道 有钱人 都 干 嘛 吗?  
 だ ok ok 経営者 ma あなた 知る 金持ち みんな する 何 ma  
 (全員私たちの仲間、仲間だよ。我々はもう何も心配しなくても、ok、ok ってことだよ。  
 経営者なんだからさ、金持ちというものは何をするとと思う?)

この場合の「老板(経営者)」は会社を作った「私たち」のことを言っているというより、会社の経営者や経営者一般を指していると考えられる。6例見つかったモノを表す場合も同じくモノ一般を指す一名詞句であり、指示詞を伴う1例「这封面儿(この表紙)」も具体的な対象を指すものではなく「この場合の表紙」または「こんな表紙」の意味で使われている。

- (8) 诶, 老陈 哪, 我 好象 跟你 提过 多次 了, 这 封面儿  
 ei 陳さん na 私 恐らく に あなた 言及する 何回 le この 表紙  
 嘛, 就 应该 表现 祖国 大好 形势, 大丰收 啊, 大  
 ma まさに すべき 表現する 祖国 素晴らしい 情勢 大豊作 a 大きい  
 胖 娃娃 的 什么 的。  
 太る 赤ちゃん の 何 の

(ね、陳さん、あなたには何度も言ったでしょ、こういう表紙は、まさに祖国の素晴らしい状況を表現すべきだよ、大豊作や大きいぼっちゃりした赤ちゃんとか。)

それに対して、特定の指示対象を持つ例として「王师傅(王シェフ)」に言及する次の二つがある。

- (9) 王师傅 嘛, 就 是 胖了 点儿 嘛。  
 王シェフ ma ただ だ 太った 少し ma  
 (王シェフはね、ちょっと太っているだけなんだよね。)

- (10) 哎呀, 王师傅 嘛, 个人 也 挺 委屈, 哭了 好 几次。  
 まあ 王シェフ ma 個人 も 少し 不当 泣いた 良い 何回  
 (まあ、王シェフはね、個人的にもちょっと不当だと思って、何回も泣いてたよ。)

### 3.2. 文における位置

中国語語気助詞「嘛 (ma)」は文末でも、文中のポーズの後にも用いられる。呂 (1980) によれば、文中に現れる場合、「続く文に対して聞き手の注意を喚起する」機能を持つ。例文 (2) と (3) はそれぞれ文末と文中に現れる例である。

CCL コーパス中から得られた 23 例の「N(P)嘛 (ma)」を語気助詞「嘛 (ma)」の出現位置によって分類すると、文中の用例が多く、文末に現れるのは 7 例であり、文中に現れるものは 16 例であった。次の (11) と (12) はそれぞれ文末と文中の用例である。

(11) 人 嘛, 不是 机器, 精力 有限。  
人 ma ではない 機械 精力 限られる  
(人間はね、機械じゃないから、気力に限界がある。)

(12) 这 哪 能 哪! 一定 又 演绎 了。作家 嘛。  
これ どこ できる na きっと また 脚色する le 作家 ma  
(そんなのはありえないでしょ! きっとまた脚色したでしょ。作家だからね。)

同じ名詞句が文末でも文中でも「嘛 (ma)」と共起する例がある。例えば、例 (13) の「現在嘛」は次のように文末にも現れる。

(13) 过去 是 我, 现在 嘛, 我也 摸 不 准 了。  
過去 だ 私 現在 ma 私 も 模索する ない 正確 le  
(以前は私で、今は、私もよくわからないんだ。)

(14) 小时候儿 可能 怕 他 爸, 那 结婚 以后 也就 怕 我  
幼い頃 恐らく 恐れる 彼 父親 それ 結婚する 以後 も ただ 恐れる 私  
了, 啊, 哼, 现在 嘛.....  
le ああ ふうん 現在 ma

(この人は幼い頃は恐らく父親を恐れていて、結婚してからはこわいのが私だけになったみたいだけど、今になるとな…)

「嘛 (ma)」の出現位置によって前置する名詞句を分類すると、次のようになる。

(15) 「嘛 (ma)」の位置による N(P) の分類:

文中: 孩子、年轻人(4)、人民、王师傅 (2)、人 (2)、家庭矛盾、 仿生学、 钱、  
子供 若者 人民 王シェフ 人 家庭トラブル バイオニクス お金

这封面儿、 后来、 现在  
 この表紙 以後 現在  
 文末：老板、 作家、 女人、 一个编辑部的同志、 小道消息、 集成电路、 现在  
 経営者 作家 女 同じ編集部の同僚 うわさ 集積回路 現在

### 3.3. コーパスの用例の特徴のまとめ

以上「N(P)嘛 (ma)」の名詞句 (N(P)) の意味と語気助詞「嘛 (ma)」の位置に注目し、コーパスデータに見られるそれぞれの特徴を考察した。名詞句の意味を見ると、ヒトやモノを表す表現が多かったが、時間を表す語もあった。(6) のリストからわかるように、裸名詞一つで「嘛 (ma)」と共起するものが多く、「一个编辑部的同志 (同じ編集部の同僚)」のような修飾を受ける名詞句や「王师傅(王シェフ)」のような特定の対象を指す例は少なかった。一方、「嘛 (ma)」の出現位置から見ると、文中に現れ、聞き手の注意を引きつける例は確かに多かったが、「N(P)嘛 (ma)」の構造で完結した文として振る舞う文末の用例も少なくなかった。また、(14) のような時間詞表現の例<sup>12</sup>もあるが、後続文の有無に関わらず、時間詞の3例は全て先行文脈の時間と対比の意味で用いられている。

## 4. 「N(P)嘛 (ma)」の発話場面的な意味

### 4.1. 「嘛 (ma)」が文中に現れる場合

「N(P)嘛 (ma)」を前後の文脈と関連づけてみると、聞き手と異なる意見を述べたり、聞き手を説得しようとしたりする場面に用いられることが多いことがわかる。例えば、(16) は記事の原稿を無くした余さんへの不満を募らせる牛さんを、陳さんが宥める場面である。

(16) 牛: 哼, 也 就 是 他, 丢了 稿子 还 能 睡  
 牛さん ふん も ただ だ 彼 無くした 原稿 も できる 寝る  
 那么 香。  
 そんなに ぐっすり  
 陈: 啊, 小余 这一阵子 啊, 忙忙碌碌的 够 辛苦 的。 人 嘛,  
 陳さん ああ 余さん ここ最近 a 忙しくて 十分 大変 の 人 ma  
 不是 机器, 精力 有限。 小余 啊, 想起来了 没有 啊?  
 ではない 機械 精力 限られる 余さん a 思い出した ない a

(牛さん：ふん、あいつしかいないよ、原稿をなくしてもあんなにぐっすり寝られるなんて。

<sup>12</sup> 時間詞表現は主語ではなく、呂 (1980) のいう「c 若干の副詞・接続詞・応答詞の後ろ」に生じる用法の一つである。

陳さん：ああ、余さんここ最近な、仕事が忙しいだけでも大変だったんだ。人間はね、機械じゃないから、気力に限界がある。余さんさあ、まだ思い出さない？)

陳さんが提示する理由を整理すると、次のように考えられる。余さんの代わりに言い訳をして牛さんを説得しようとしているのである。

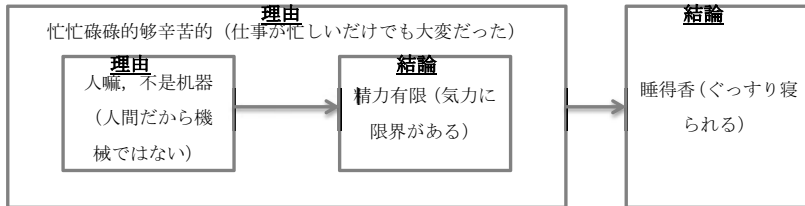


図 1. 理由提示

また、相手の質問に答える例もあった。話し手が自分の回答を支持するようにさらに理由を付け加える時に「N(P)嘛 (ma)」を用いる。次の牛さんの発話はその例である。記事の原稿の出来栄を聞かれると、「全体的に良かった」と評価した後、「若者だから少し句読点のミスがあっても許される」という態度で自分の評価をサポートする発言を続ける。

(17) 陳： 写得 怎么样？

陳さん 書いて いかが

牛： 啊， 总的来说 相当 不错。

牛さん ああ 全体的に言うと 相当 悪くない

陳： 噢。

陳さん うん

牛： 有 些 标点符号 不 太 准确， 年轻人 嘛， 不能

牛さん ある すこし 句読点 ない ととても 正確 若者 ma できない

太 苛求 了。

すぎる 厳しくする le

(陳さん：出来栄はどう？)

牛さん：ああ、全体的にいうとかなり良かった。

陳さん：うん。

牛さん：すこし句読点の正しくないのがあったけど、若者はね、厳しくしすぎちゃだめなんだよ。)



話し手が言う「年轻人嘛 (若者+ma)」は「句読点のミスがある」ことの原因にもなり、「厳しくしすぎちゃだめ」という後続する発話の内容を正当化する理由にもなる。

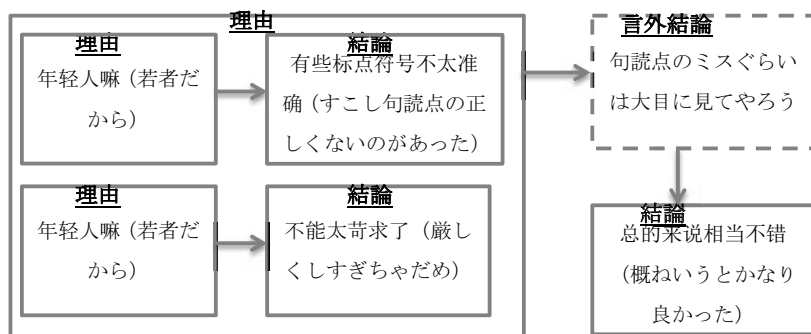


図 2. 理由提示

(16) と (17) は、ともに「嘛 (ma)」が文中に現れる例であるが、「N(P)嘛 (ma)」だけで理由を表せるかどうかで異なる。(16) の一名詞句文「人嘛 (人+ma)」、(17) の「年轻人嘛 (若者+ma)」は単独でも後続文の理由として機能する。

「N(P)嘛 (ma)」の後続文の述語部分に注目すると、属性述語 (例えば、例 (16)) がほとんどであり、事象述語<sup>13</sup>、つまり進行形や完了形などの形式で出来事を描写するような述語は王シェフについて語る次の 1 例しかなかった<sup>14</sup>。

(18) 社长: 哎呀, 王师傅 嘛, 个人也挺 委屈, 哭了好几次。一直  
 社长 嘛 王シェフ ma 个人も少し 不当 泣いた 何回も ずっと  
 人家 是 先进 嘛, 这也 很 奇怪。可是 这也  
 那人 だ 先进労働者 ma これも とても 当然 しかし これも  
 不能 不让 群众 议论 呢。想了 半天 没 什么 办法,  
 できない させない 一般大衆 議論する ne 考えた 半日 ない 何 方法  
 我看 干脆 调离 是非之地。  
 私 みる いっそ 転任させる トラブルの場所

(社长: まあ、王シェフはね、個人的にもちょっと不当だと思って、何回も泣いてたよ。彼はずっと「先進労働者」だったしね、それも理解できる。けど、みんなに批判させないよ

<sup>13</sup> 刘 (2002) にあった用語を使っているが、益岡 (2000) の「属性叙述」と「事象叙述」に対応するものと考えられる。益岡 (2000: 39) によれば、「属性叙述とは、ある対象がある属性 (特徴や性質) を有することを表現するものであり、事象叙述とはある時空間に実現・存在する事象 (現象) を表現するものである。

<sup>14</sup> 前述する時間詞の 3 例に後続文に事象述語が用いられるものが 2 例あるが、名詞句が時間詞である例はここでは扱っていない。

うにすることはできない。散々考えたけど、どうしようもなかったので、もうトラブルのあった部署から転勤させてしまおうと思ったんだ。)

#### 4.2. 「嘛 (ma)」が文末に現れる場合

一方、「N(P)嘛 (ma)」の「嘛 (ma)」の文末に現れる例は、相手の発言に対する反応というより、話し手自身の主張したことを支持する根拠を述べる文で使われることが多い。(19)のように「N(P)嘛 (ma)」は発話の最初ではなく、途中や最後に現れる。例えば、「妻からビンタされる」ことで悩むと語る聞き手に、話し手が「作家だからまた話を脚色した」と、相手の語ることが信じられない理由を説明している。

(19) 张: …… 动不动 就 大耳帖子 贴 我。 啊, 跟 拍 苍蝇 一样,  
 張さん よく すぐに ビンタ 打つ 私 ねえ と 叩く 蠅 同じ  
 我 想不通, 我 想不通。  
 私 理解できない 私 理解できない  
 牛: 嗷嗷嗷, 我 不信。 这 哪 能 哪! 一定 又  
 牛さん ふーん 私 信じない これ どこ できる na きっと また  
 演绎 了。 作家 嘛。  
 脚色する le 作家 ma

(張さん: …よくビンタ打ってくる。ねえ、ハエを叩くみたいに、わからない、わからない。)

牛さん: ふーん、私は信じない。そんなのはありえないでしょ! きっとまた脚色したでしょ。作家だからね。)

話し手が捉えている因果関係をまとめると、次のように考えられる。

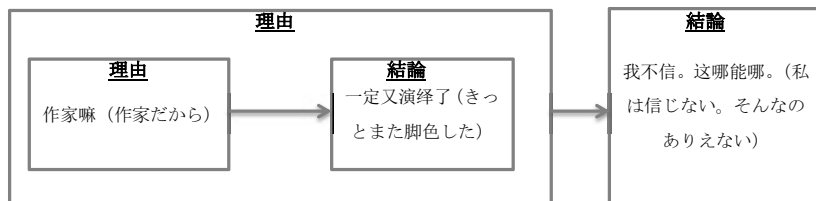


図 3. 理由提示

それに対して、前述の内容と対比する例もある。(20) では夫の張さんが普段恐れているような人があるかと聞かれた妻の劉さんが、現在と過去の対比で答えようとしている。昔は恐れて

いる人がいたが、今になるともう誰も恐れてはいないという意味で、劉さんの話が「現在嘛（現在+ma）」で終わっている。以下に前後の文脈も合わせて提示する。

- (20) 李: 他 平时 有 没有 什么 人 比较 怕, 一见 就  
 李さん 彼 普段 いる いない 何 人 比較的 恐る みると すぐに  
 哆嗦?  
 震える  
 刘: 小时候 儿 可能 怕 他 爸, 那 结婚 以后 也 就  
 劉さん 幼い頃 恐らく 恐れる 彼 父親 それ 結婚する 以後 も ただ  
 怕 我 了, 啊, 哼, 现在 嘛.....  
 恐れる 私 le ああ ふうん 現在 ma  
 张: 现在 呢, 连 你 也 不怕 了。 告诉 你 呀, 兔子  
 張さん 現在 ne まで あなた も 恐れない le 教える あなた ya 兎  
 急了 还 咬 人 哪。 哼, 现在 我 是 天马行空, 浑身是胆。 这  
 怒ったら まだ 噛む 人 na ふうん 現在 私 だ 無制限 豪勇 これ  
 还 得 感谢 你 呢。  
 まだ すべき 感謝する あなた ne

(李さん：ご主人には普段怖がってる人はいる、みるたびに震えちゃうような？)

劉さん：この人は幼い頃は恐らく父親を怖がっていて、結婚してからはこわいのが私だけになったみたいだけど、今になるとな…

張さん：今はね、お前すら怖くなくなったよ。教えてやるよ、うさぎも怒ると人を噛むんだよ。ふうん、今私は怖いもの無しだよ。これもお前のおかげなんだよ。)

#### 4.3. 「N(P)嘛 (ma)」の発話場面的意味のまとめ

前節からわかるように、「N(P)嘛 (ma)」は話し手自身が達した結論をサポートするための理由を表現するのによく用いられる。後続文がある場合、属性述語が使われやすく、事象述語が使われることは極めて少ない。また、「N(P)嘛 (ma)」は発話のどの部分においても出現可能であるが、後続文がない場合には発話のターンの最初には用いられにくい。

「N(P)嘛 (ma)」の先行文を Q で、後続文を P で表記し、話し手 <S> と聞き手 <H> を区別すると、「N(P)嘛 (ma)」の文脈における出現パターンは次の表にまとめられる。

表 1. 「N(P)嘛 (ma)」の出現パターン<sup>15</sup>

	語気助詞の位置による分類	先行文脈の発話者	「N(P)嘛(ma)」文と先行文脈の関係	N(P)のタイプと後続文の述語のタイプ
後続文あり	「N(P)+ma」, P。(16)	Q<S>。「N(P)+ma」, P。(13)	Q<S>。支持理由「N(P)+ma」, P。(8)	理由, P (属性述語)。(6)
			Q<S>。対比項目「N(P)+ma」, P。(2)	P (事象述語)。(2)
			Q<S>。関連話題「N(P)+ma」, P。(3)	P (属性述語)。(3)
		Q<H>。「N(P)+ma」, P。(3)	Q<H>。回答「N(P)+ma」, P。(1)	P (事象述語)。(1)
			Q<H>。説得理由「N(P)+ma」, P。(2)	理由, P (属性述語)。(2)
後続文なし	「N(P)+ma」。(7)	Q<S>。「N(P)+ma」。(7)	Q<S>。支持理由「N(P)+ma」。(5)	
			Q<S>。対比「N(P)+ma」。(2)	

5. 考察

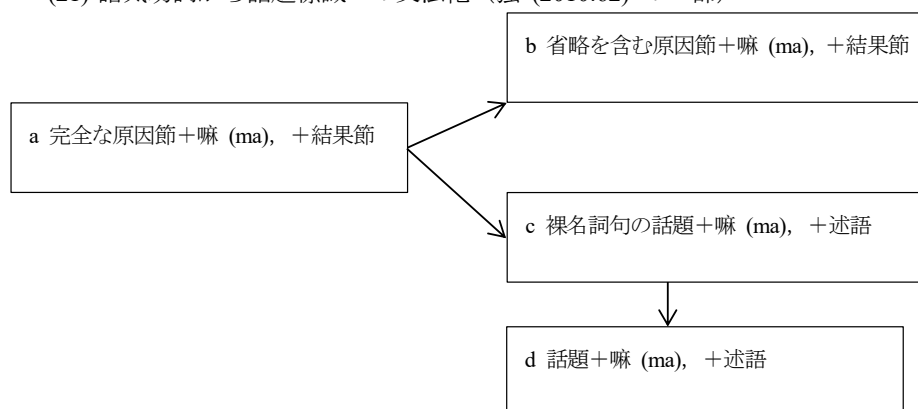
以上の議論から、「N(P)嘛 (ma)」は先行文脈に対して理由を説明するのに用いるのが最も典型的であることが分かる。先行文脈は話し手自身の発話である場合が多いが、聞き手の発話の場合もある。「N(P)嘛 (ma)」文は一名詞句が特定の人やものではなく、あるカテゴリーに属するもの全体を指し示すことが極めて多い。これは、刘 (2002) の言う「類称 (kind-denoting)」に相当する。この種の名詞はよく文の主語または話題 (subject/topic) の位置に現れるという観察 (刘 (2002)) も「N(P)嘛 (ma)」の用例と合致する。

强 (2010) は、語気助詞「嘛 (ma)」は文法化を経て話題標識「嘛 (ma)」になったと述べている。「嘛 (ma)」の出現する典型的な環境は因果関係を述べる文脈であり、とりわけ原因を表す節に現れることが多いという。「嘛 (ma)」を含む原因節が名詞句に変化し、その結果、「嘛 (ma)」が語気助詞から話題標識へ変わったとされる<sup>16</sup>。そのプロセスを図示すると、次のようになる。

<sup>15</sup> 括弧に例の数を表示している。「N(P)嘛 (ma)」文と先行文脈との関係を□で表記し、Q との間に表示する。「N(P)嘛 (ma)」単独でも理由を示す場合に理由でマークする。P にある述語のタイプを括弧に示す。

<sup>16</sup> 例えば、因果関係を表す複文の「他是队长嘛, 他还能不知道? (彼は隊長だから、知らないことはないでしょ?)」は、文脈によっては「队长嘛, 还能不知道? (隊長だから、知らないことはないでしょ?)」とも表現できる。この場合の「队长 (隊長)」は属性を表す非指示的 (non-referential) 成分としても解釈でき、隊長の身分を持つ人のグループという解釈も可能である。後者の解釈を取る場合、「隊長というものは」という意味を表し、「嘛 (ma)」は話題標識と分析できるのである。

(21) 語気助詞から話題標識への文法化 (強 (2010:62) の一部)<sup>17</sup>



また、張・方 (2014) は文中語気助詞を話し言葉に特有の主題 (theme) 標識とし、「嘛 (ma)」にも主題をマークする機能があると述べている。話題変換の時にも「嘛 (ma)」が用いられるが、前の文脈と関連する情報をマークする場合には強勢を置かず、新しい情報を伝える場合には対比を表すために「嘛 (ma)」に強勢を置く。「嘛 (ma)」に後続する内容が自明であることであれば文脈によって後続文を省略できる。このように、後続文の有無にかかわらず、「N(P)嘛 (ma)」文を一つの構文として扱う妥当性が裏付けられる。

一名詞句文としての「N(P)嘛 (ma)」は、聞き手にN(P)の指示対象に関する百科事典的知識を想起させ、先行文脈との因果関係、対比の関係や、質問に対する回答の関係などを推論させる。ただし、王 (2019) で主張したように、この場合の因果関係は主観的なものであり、話し手が捉える「理由と結論」という関係に近い。「N(P)嘛 (ma)」文に現れる名詞句があるカテゴリーに属するもの全体を指す (類称) 場合、その属性や特徴<sup>18</sup>が想起されやすく、後続文で改めて述べる必要がないこともある一方で、特定の対象を指す場合、その名詞句の内包的な一面が想起されにくくなり、後続文で内容を補足する必要がある。例えば、(7) にある「老板 (経営者)」は「会社を経営する」や「金持ちである」などの特徴を持ち、「お金を持って指示を出す人間」というようなイメージと容易に結びつく。それに対して、(18) のような例では、その人物のどの特徴に注目すべきかがはっきりしない場合が多く、そうした場合には、後続文で情報を補足することが必要である。特定の対象が先行文脈にある出来事に結びつく場合であっても、「老板 (経営者)」などの類称名詞句が表す対象の属性とは異なり、思い浮かべることが難しくなるであろう。例えば、例 (18) にある「王师傅 (王シェフ)」が「不当だと思って何回も泣いてた」ことを、話し手の李社長は転勤させた理由として口に出しているが、聞き手である戈さんにとっては「王师傅 (王シェフ)」と「何回も泣いてた」ことの結びつきは想像しやすいものではないため、後続文で事象述語を用いて詳しく語っているものと考えられる。

<sup>17</sup> 訳は筆者による。

<sup>18</sup> 刘 (2002) の言う内包 (intension) 的な一面である。彼によれば、内包は物事の属性を強調する。

「N(P)嘛 (ma)」文の用法をまとめると、下図のようになる。上に行けば行くほどより典型的な用法である。矢印で発話の順番を示し、文などの表記は表 1 に従う。∅ は後続文が存在しない（文末の用例であること）ことを示す。

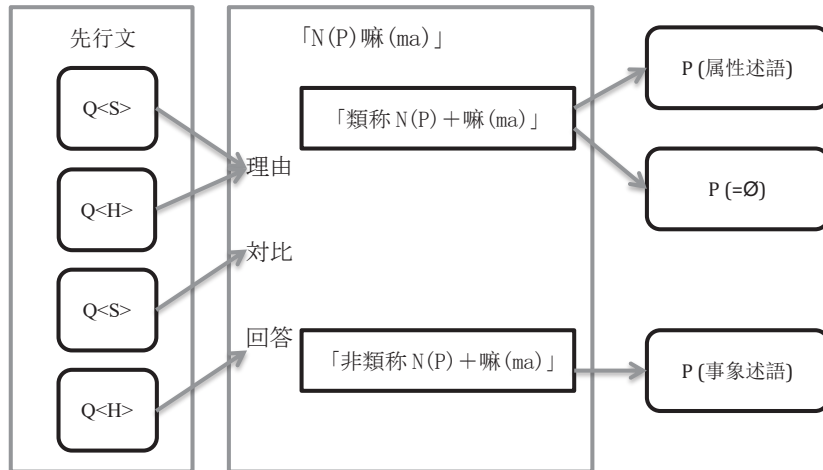


図 4 「N(P)嘛(ma)」文の用法

## 6. まとめ

「N(P)嘛 (ma)」文に見られる特徴をまとめると、次の四つが挙げられる。1) N(P)は特定の対象ではなく、類全般を指示することが多い；2) 後続文を伴うことが多いが、単独で使われることもある；3) 先行文脈に対する理由として解釈されるものが多い；4) 後続文の述語は属性的なものが多く、アスペクトなどを伴う事象述語は非常に少ない。

## 参考文献

- 刘丹青 (2010) 《汉语类指成分的语义属性和句法属性》，《中国语文》第 5 期。
- 强星娜 (2010) 《话题标记“嘛”与语气词“嘛”》，《汉语学习》第 4 期。
- 沈威 (2013) 《论据性推断结构“X 嘛”》，《汉语学报》第 2 期。
- 张斌 (2010) 《现代汉语描写语法》，商务印书馆。
- 张伯江・方梅 (2014) 《汉语功能语法研究》，商务印书馆。
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》，商务印书馆。
- 井上優 (2012) 「モダリティの対照研究：日本語と中国語を例に」『事例研究』ひつじ書房。
- 尾上圭介 (2001) 「一語文の用法－“イマ・ココ”を離れない文の検討のために－」『文法と意味 I』くろしお出版, 217-238。
- 尾上圭介 (2014) 「一語文」日本語文法学会・仁田義雄・尾上圭介・影山太郎・鈴木泰・村

- 木新次郎・杉本武『日本語文法事典』仁田義雄 [ほか] 編集 大修館書店, 21.
- 王瓊 (2019) 「中国語語気助詞「嘛 (ma)」による因果関係の提示—情報のなわ張り理論を用いる考察—」, 『東京大学言語学論集』第41号. 東京大学人文社会系研究科・文学部言語学研究室, 353-366.
- 木村英樹・森山卓郎 (1997) 「聞き手情報配慮と文末形式—日中両語を対照して—」『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版, 235-275.
- 香坂順一 (1982) 『現代中国語辞典』光生館.
- 本多啓 (2005) 『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象』東京大学出版会.
- 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』くろしお出版.
- 呂叔湘 (主編) (1980) 『現代漢語八百詞』商務印書館 (菱沼透・牛島徳次 (監訳) (2003) 『中国語文法用例辞典』 東方書店) .
- 劉月華・片山博美・相原茂他 (1988) 『現代中国語文法総覧』 (『現代中国語文法総覧』 刘月華 [ほか] 著 ; 片山博美 [ほか] 共訳) くろしお出版.
- Chao, Yuen Ren. (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press.
- Uno, Ryoko. (2009) *Detecting and Sharing Perspectives Using Causals in Japanese*. Hituzi Syobo Publishing.
- Weidong ZHAN, Rui GUO, Yirong CHEN. (2003) *The CCL Corpus of Chinese Texts: 700 million Chinese Characters, the 11th Century B.C. - present*, Available online at the website of Center for Chinese Linguistics (abbreviated as CCL) of Peking University, [http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus)

## On the Use of the Context-dependent “N(P) *ma*” as a Freestanding Sentence

WANG Qiong

wangqiongcarolyn@yahoo.co.jp

**Keywords:** Chinese, sentence-final particle, one-NP sentence, NP-*ma*,

### Abstract

This paper provides a detailed account of the use of Chinese “N(P) *ma*” as a full-fledged sentence. It is argued that by using “N(P) *ma*” in this way, the speaker urges the addressee to infer the (typically causal) relation holding between its content and the preceding context by drawing on his or her encyclopedic knowledge about the N(P)’s referent. In the vast majority of cases, since the N(P) designates a type, the addressee can easily access the relevant information. This makes it unnecessary to make that information explicit in the following sentence. On the other hand, when the N(P) refers to a specific individual, the addressee is often required to draw inferences about that individual, which is why “N(P) *ma*” has to be followed by a sentence that helps to get this process on the right track.

(おう・けい 東京大学大学院)